未来が変わる。日本が変える。 チャレンジ25 環境省

オフィスの節電　広告企画

企画・制作＝日本経済新聞社クロスメディア営業局

厳しい夏を乗り切ろう

節電・CO_2削減に積極的参加を

オフィスでの働き方、ライフスタイルを見直そう！

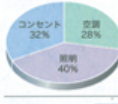
東日本大震災の影響により、日本の電力供給が予断を許さない状況だ。最需要期となる夏も目前に迫る中、国民一体となった節電への対応が緊急の課題となっている。そこで、環境省が推奨するフ つの取り組みを柱とする節電アクションを紹介。CO_2削減にも資するオフィスでできる節電のポイントをまとめてみた。

オフィスでできる節電7カ条

1 エアコンで節電
設定温度・風向きを調節して節電！

オフィスにおける使用電力の3割を占める空調、エアコンを上手に活用することで、それほど暑さを感じることなく節電が可能だ。まず夏の室温は28度に設定。そも本当に必要な場所だけ稼働する。タイマーを上手に使い、スイッチのオン・オフはまめに。外出する際も直前でなく早めのオフを。ムダな長時間使わないときはプラグを抜いておくなどの工夫を。

■オフィスにおけるエネルギー消費割合



2 クールビズで快適に
勤務の状況に合わせて服装の工夫を！

夏場のビジネススタイルとしてすっかり定着したクールビズ。上着を脱いでネクタイをはずすだけで体感温度は大きく上がる。最近は公式の場でも上着省略が認められ、ワイシャツ姿でも、ネクタイ・上着を常に着用しているとなると、暑さに耐えるようになると感じる。フィルターが目詰まりしている冷房効率が落ちるので、フィルターは最低6ヶ月間に一回は付けたい。

3 断熱性を向上
熱の出入りを効果的に防いで節電！

窓から差し込む直射日光は冷房の大敵。遮熱カーテンやブラインド、すだれなどでしっかり防ぐべき。窓ガラスに張る断熱シートや複層ガラスも断熱性がよく、ゴーヤなどの蔓（つる）性植物でグリーンカーテンなども見た目も涼しく感じられる。また窓の涼しい時、屋上やベランダに打ち水をするのも効果的だ。

4 就業の見直し
オフィスで朝チャレ！

就業開始を前倒しし、「オフィスで朝チャレ」を実践するのも節電効果が高い。朝は夏でも涼しいと感じるいいのだ。これに「ノー残業デー」を加えれば、夜間の消費電力も削減できる。さらに夏休みもバラバラでなく、できればフロア一斉にとるのが理想。この間は、フロアゆのエアコンや照明、OA機器などの電源もすべて切って対応することができる。

5 照明で節電
明るさや消灯時間を調節して節電！

節電業界の一環で照明を「部分カット」するオフィスも多いが、それに慣れてくると、今までが明るい過ぎた気がしないでもない。これからは必要のない場合は照度を下げたり、照明器具の数を減らすのも大事だ。点灯時間もできるだけ短くし、部屋を空けるときはこまめに消灯する。

最近は省エネ型の照明器具も数多く登場してきた。自然蛍光灯を用いるのも一つの方法。なるべく消費電力の少ない電球型蛍光灯やLED（発光ダイオード）電球に切り替えたい。明るさを検知して点・消灯する照度センサーや人感センサーを採用する照明、消し忘れなどの心配もなく節電につながる。

6 省エネ機器で節電
日々進化する省エネ機器を導入！

エアコンや照明はもちろん、各種電化製品やOA機器も日々進化している。効率の高い最新鋭省エネ機器に入れれば節電効果も倍増だ。またオフィスの壁や床、窓なども最新の省エネ基準を満たす断熱材やエコガラスに代えることにより、冷房効率を一段と高めることができる。

さらに植物的なエネルギー利用を考えるなら太陽光発電や太陽熱温水器の設置も考えたい。無尽蔵の太陽エネルギーを冷暖房や給湯に活用できる。

7 省エネ行動で節電
電気使用は必要最小限に！

一人ひとりがちょっとした日々の行動で節電に貢献することは意外に多い。例えばエレベーター利用の自粛、低層階なら階段を利用し、稼働数を減らしたパソコンやコピー機などのOA機器は、使わないときは必ず電源をオフする。さらに時間使わないときはコンセントを抜くこともかけがえない。待機電力を減らすことができる。

このほか環境省ではこの夏、「昼も夜もクールビズ」を実践する。こうしたキャンペーンに積極的に参加してみるのもいいだろう。

企業・個人の意識改革が重要なポイント

オフィスのエネルギー消費は空調と照明で全体の7割占める

進む企業の節電対策

勤務シフト変更や一斉休業も

「未曾の夏」を前に企業の節電対策も一段と熱を帯びてきた。すでに多くのオフィスで進められているのがエアコンの設定温度を上げたり、不要な照明の消灯、クールビズの推奨、サマータイム制の導入などに中でも効果が大きい勤務時間の変更。例えば、ある電機メーカーでは今年度中の毎日午前7時から午後4時までの1時間繰り上げるサマータイム制を始動中だ。また日本自動車工業会では、2週間程度の一斉休暇を輪番で休ひ休制を検討中だ。また日本自動車工業会では、先ごろ、7・9月の木・金曜日に全国の工場を「一斉休業」することを決めた。これには関連の自動車部品メーカーなども、業界ぐるみで休日を変更し、需要の多い平日のピーク電力削減を図る。

このほかコンビニエンスストアでは、看板の消灯・空調停止に加えて、店舗別のLED化や電力の使用状況を測るセンサーなどの導入を計画している。

勤務体制を見直す動きも広がっている。ある電機メーカーでは今年度中の毎日午前7時から午後4時までの1時間繰り上げるとともに、夏場に2週間程度の一斉休暇を設ける。銀行などでも支店の一日営業時間を輪番で休ひ休制を始める。また日本自動車工業会では、先ごろ、7・9月の木・金曜日に全国の工場を「一斉休業」することを決めた。これには関連の自動車部品メーカーなども、業界ぐるみで休日を変更し、需要の多い平日のピーク電力削減を図る。

協力、業界ぐるみで休日を変更し、需要の多い平日のピーク電力削減を図る。

このほかコンビニエンスストアでは、看板の消灯・空調停止に加えて、店舗別のLED化や電力の使用状況を測るセンサーなどの導入を計画している。

従業員に対する家庭エコ診断

環境省が専門の診断員を無料で派遣

夏の「節電チャレンジ」を成功させるには、オフィスや事業所の電力対策に加え、従業員の家庭での取り組みも欠かせない。その支援として環境省では「従業員向けの家庭エコ診断」を実施、現在その参加企業を募集中だ。

同診断は、参加企業の事業所に診断員を派遣し、従業員の家庭のエネルギー使用状況などを無料で診断するというもの。各家庭の状況に応じてCO2削減や節電のために有効な対策を伝授する他、対策費用や効果などに関する情報もきめ細かく提供する。さらに一定期間後、企業として取り組んでいるCO2削減・節電実績を集め効果を公表する。

これら一連の「環境省」では、昨年に引き続き、工場やビルのエネルギー無料で計測・診断する「CO2削減・節電サポートテンシャル診断」への参加企業も募集中。新設機器・高効率のCO2削減策や節電効果、初期投資費用、投資回収年数など、費用対効果の観点から商確なアドバイスが受けられる。

上旬から8月上旬までの間に分けて行う。オフィスや事業所の電力対策に加え、従業員の家庭での取り組みも欠かせない。その支援として環境省では「従業員向けの家庭エコ診断」を実施、現在その参加企業を募集中だ。

これら一連の「環境省」では、昨年に引き続き、工場やビルのエネルギー無料で計測・診断する「CO2削減・節電サポートテンシャル診断」への参加企業も募集中。新設機器・高効率のCO2削減策や節電効果、初期投資費用、投資回収年数など、費用対効果の観点から商確なアドバイスが受けられる。

それぞれの詳しい問い合わせは

- 「従業員に対する家庭エコ診断」
  総合案内　電話（03）6273-7785
- 「CO_2削減・節電サポートテンシャル診断」事務局
  フリーダイヤル（0120）626-002

エコ・ファースト制度とは？

環境保全への先進企業として認定

「エコ・ファースト制度」とは、環境保全の分野で「先進的、独自的でかつ業界をリードするような事業活動」を行っている企業であることを環境省が認定する制度。認定された企業は、環境省が制定する「エコ・ファースト・マーク」（右下）を広告などに使用することができる。現在認定されている企業は2011年6月1日現在、38社。各種製造業から建設、流通・小売業、保険、サービス業に至るまで多岐にわたり、それぞれ独自の切り口で環境保全活動を展開中だ。

ECO FIRST

問い合わせ先

環境省エコ・ファースト制度担当
e-mail: ecofirst@env.go.jp
TEL:03-5521-8326
http://www.env.go.jp/guide/info/eco-first/index.html

エコ・ファースト《2011年夏の節電の約束の会》開催

環境対策が先進的な企業であることを環境省が認定する「エコ・ファースト制度」。現行が3年前に始められ制度だが、政府による「15%節電」の要請を受けて、この取り組みが自ら先んじて意気込みを示すため、7月1日に「エコ・ファースト 2011年夏の節電の約束の会」が、さらに7月18日、環境省内で行われた。写真は、当日出席製造業、建設業、流通・小売業、サービス業など認定企業24社の代表者が出席、各社個別に進めている節電対策の報告がなされた。

今夏の最大使用電力を以上の削減、具体的な取り組み方法を各社各略。「オフィス内の空調設定温度を上げる」「照明度の低減」「パソコンの節電」など基本的策はいうに及ばず、「工場の生産シフトとピーク電力の使用を抑える」「未社のすべての窓に遮熱カーテンを設置」などさまざまなアイデアが紹介された。

エコライフフェア2011 6月4・5日開催

6月5日は「環境の日」。これに合わせて環境省は、4、5の両日、都立代々木公園のケヤキ並木・イベントと広場で「エコライフ・フェア2011」を開催する。

今回が22回目となる同フェアには、環境のほか各種企業・団体が出展し、環境にちなんだそれぞれの取り組みを紹介、大人から子供まで、楽しみながらエコライフを見つめ直すことない機会となりそうだ。入場は無料。問い合わせは同フェア運営事務局、電話（03）5403-9901まで。

参加企業24社の代表が力強く決意宣言！

松本環境相も「いろいろな意見や知恵を拝借でき、今日は盛の洗濯になった」と総括。「再生可能エネルギーや省エネ、節電などを目標とする企業もあった。

こうした各社の前向きな姿勢で、松本環境相も「25%節電システム導入などと併せ、25%節電を目標とする企業もあった。

参加企業は、ANA、ANAビル、ANAクレアホテル、ANAセールス、三洋商事、損害保険ジャパン、タケエイ、電通、東京海上日動火災保険、住友ゴム工業、資生堂、ノーリツ、日本ミシュランタイヤ、日本航空、ニッポンレンタカーサービス、ワタミ、辻・本郷税理士法人、京王プラザホテル（認定順）。

環境省